審 査 結 果 の 要 旨

（１）研究の目的に意義や独創性があるか。

本研究は，日本の大卒労働者市場の中で多数派を占めるであろう中堅大学の学生に関して，質的・量的な研究を行ったものである。目的の意義や独創性としては，まず中堅大学の学生に特化した先行研究が，日本では非常に少なかったため，本研究の意義は高い。また，TEM（Trajectory Equifinality　Model：複線経路・等至性モデル）という質的研究法を用いて，大学生の成育歴を含めた丹念なインタビューを行うとともに，事例研究にとどまることなく，量的調査を併用する mixed method を用いることで，就職活動が上手くいった学生とうまくいかなかった学生のアイデンティティ形成やキャリア形成過程の相違に関して一定の仮説を立て，仮説を支持する結果を得ている点が独創的である。

さらに，中堅大学の学生の特徴を明らかにするために，国内の上位大学や将来日本の労働市場に多数参入する可能性が高いインドネシアの大学生とも比較している点も，独創的である。

（２）研究の方法は当該学問分野において妥当なものか。

質的研究と量的研究を併用する mixed method を用いた研究は，両方の手法を使える研究者が少ないこともあり，必ずしも多いとは言えない。本研究は，質的研究と量的研究を適切に組み合わせることにより，対象大学生の個別性について深く掘り下げつつも，一般性のある知見を提供することに成功している。したがって，本研究テーマに即した，非常に価値のある方法である。

（３）研究資料やデータの収集と分析が適切になされているか。

質的研究については，縦断的な研究を数年間にわたり行っており，サンプリング方法，人数的にも十分である。TEM での分析方法も，最新の方法にのっとって，適切に行われている。量的研究に関しては，様々な統計手法を適切に扱っており，必要にして十分な分析が行われている。量的研究のサンプリングも，様々な中堅大学の学生を対象とし，偏りのない抽出が行われている。

（４）研究の考察と結論が妥当であり，学術的な水準に達しているか

日本の中堅大学の学生の結果と，若年者人口が増大の一途をたどり，将来の日本の労働者市場に大量参入することが見込まれるインドネシアの大学生のデータ，ならびに選抜性の高い日本の上位大学の学生のデータとの比較検討を行うことにより，日本の中堅大学の学生だけを対象にした場合よりも明確に，中堅大学の学生の特徴を浮き彫りにしている。そこから得られた結論については，非常に妥当性が高く，かつ実践性も高いものとなっている。

（５）取得学位にふさわしい意義や成果が認められるか

本研究のように，日本の中堅大学の学生たちを対象とした実証的な研究を，多面的多角的に行ったものは，他に見当たらないという点でも，価値があるものであるとともに，質的研究法や量的研究法を適切に組み合わせて，一定の新知見を多く得ていることからも，十分に博士(教育学)の学位にふさわしい水準にあるといえる。

審査委員会も全員一致で十分に博士の学位の水準を満たしていると判断した。